

# 奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校

学校教育目標

3月号

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい奈良の丘

- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/naranooka/>

## 「笑顔いっぱい チャレンジいっぱい 奈良の丘」

校長 岩崎 健治

ひと雨ごとに暖かくなってまいりました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、様々な教育活動が十分にできない日々が続きました。それでも、子どもは風の子、休み時間になると多くの子どもたちが笑顔いっぱいで校庭に飛び出します。鉄棒や縄跳び、竹馬や一輪車、鬼ごっこやボール遊びなど様々な遊びを始めます。どの遊びもはじめは、今自分ができることを繰り返しながら楽しんでいるのですが、途中から「チャレンジ」をし始めます。毎日毎日鉄棒や縄跳びに取り組んでいる子どもは、「逆上がりができるようになりたい」縄跳びで「たくさん跳べるようになりたい」「二重跳びがもっとできるようになりたい」などと、はっきりとした目標をもっているようでした。目標は、そう簡単に達成できないのですが、諦めることなく実に根気よく「チャレンジ」し続けるのです。また、その集中力は大変素晴らしいものです。そんな健気な子どもの姿を見て、「フロー体験」という言葉が浮かびました。「フロー体験」とは、自分自身の「心理的エネルギー」が、100%、今取り組んでいる対象へと注がれている状態を表すもので、子どもにとってみれば、「成長」の瞬間とも言えそうです。



そのことを研究したアメリカの心理学者であるミハエル・チクセントミハイ氏は、この状態が満たされるためには、主に次のような要素が必要であると述べています。

- 取り組んでいる内容が、自分の能力と照らしあわせて難しすぎず、簡単すぎず、全能力を出しきることを要求されるレベルにあること。
- 取り組んでいるものに対して、自分でコントロールができるという感覚、可能性を感じていること。
- 取り組んでいることに対して、即座に「それは良いか、よくないか」というフィードバックが返ってくること。
- 取組対象以外のことが自分に降り掛かってくることなく、対象にのみ集中できること。

鉄棒や縄跳びの技にチャレンジしている子どもたちは、まさにこのような要素を満たしながら没頭し、自らを成長させているのだと思います。様々な活動に対して成長した自分を見てほしい、褒めてほしい、認めてほしいと一生懸命に取り組んでいます。子どもたちの成長を促すために、その思いを理解し、支えてあげることが大人の重要な役割なのだと思います。

今年度も残り少なくなってきました。厳しい状況の中、子どもたちが安全・安心、健康第一で過ごし、一年間、可能な教育活動を進めてまいりました。保護者の皆様、地域の皆様には、奈良の丘小学校の教育活動にご理解、ご協力、ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後ともお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。